

男女共同参画シリーズ その2

阿波なでしこ技術サロンと私

The Awa Nadeshiko Engineering Salon and I

1 空前の理系女子ブーム

“リケジョ”とは「理系女子（りけいじょ）」の略語で、理系分野を専攻する女子学生や女性研究者、理系の女性社員などを示す。2011年に茨城県の高校生の部活動における研究結果がアメリカの学術雑誌に掲載され、一躍注目されるようになった。近年では“ドボジョ（土木系女子）”“ノケジョ（農学系女子）”など、理系の中の様々な分野の女性が注目されている。文部科学省の調査によると2016年の理系学部への女子進学率は36%であった。私は大学では理学部に在籍し、無機固体化学を専攻したが、当時女子学生は10%以下だったと記憶している。非常に多くの女子学生が理系の技術に興味を持って進学してくれることは頼もしい限りである。

2 「博士」と「技術士」

大学卒業後は環境製剤（殺虫剤、昆虫成長制御剤他）、ペット用品、香粧品などを開発製造販売する会社に入社。現在に至る。当時は昆虫の成長ホルモン制御剤の研究があり、何と蚕の体重測定が初仕事だった。

1996年、全国各地で腸管出血性大腸菌（Enterohemorrhagic *Escherichia coli* O157:H7）による感染症の集団事例が多発した折には、大学と共同でイエバエ（学名：*Musca domestica*）による食中毒病原性菌の媒介に関する調査、実証試験に従事した。畜舎を往復し、牛糞に足を取られながらイエバエを捕獲、病原性菌を分離していくハードな調査で、睡眠時間を削っての論文執筆となったが、この研究成果により2006年に日本衛生動物学会で佐々賞を、徳島大学にて博士（工学）号をいただくことができた。

一般的に左脳の働きがよい人は、論理的で判断力に優れているタイプ、右脳の働きがよい人は、

直感的で創造性に優れているタイプといわれている。研究者は左脳の活用に優れているのではないかと考えるかもしれないが、実は研究も製品開発も右脳の発想力、想像力がつくる“ひらめき”的な事象+“運”が最も必要となってくる。“運”はさておき、前者は努力で何とかなるかもしれないと思い、「技術士」取得を目指し、2012年に合格することができた。実をいうと私の仕事分野における「博士」と「技術士」では、まだまだ「技術士」のニーズは低い。しかし、業務において関連するテーマの研究動向や産業界の動向を調査・分析して製品の企画立案、設計・デザイン、研究、分析、評価、生産検討に従事してきたが、「技術士」を取得してから専門とする生物環境工学のみならず、細胞遺伝子工学、生物化学工学をはじめ建設、環境、応用物理など異業種分野の研究者・エンジニアの皆様と交流することでコネクションが広がると共に、色々な角度から左右の脳が刺激され、物事を考える時の幅が活性化されているように感じている。「技術士」は私には最適な資格だったと思う。

3 「阿波なでしこ技術サロン」を開催して

徳島県技術士会では阿南高専出前講座など若手技術者育成を推進しており、何度か支援スタッフとして参加させていただいた。2013年度には徳島県技術士会の女性部会が発足し、2015年度より女性技術者を目指す女子学生、女子社員や女性修習技術者の方々を対象に以下の目的で「阿波なでしこ技術サロン」（以後、技術サロンと略記）を開催している。

【技術サロン開催の目的】

- 1) 女性技術者同士の親睦を深める
- 2) 女性技術者や技術者を目指す女性の現在の悩みや今後の方向性について気軽に意見交換できる場を提供する

3) 女性技術者のネットワーク構築

第2回目となる技術サロンでは機能的な会議室ではなく、お茶とケーキを用意し、参加者がリラックスできる“オープンカフェ”のような雰囲気で開催した。参加者11名のうち2名は地元の科学技術高校の女子学生であり、在学中から資格取得に努めながら技術職への就職を希望している。その志の高さに感動すると共に、しっかり者・働き者といわれる「阿波女」という言葉が頭をよぎる。

技術サロンは①勉強時間、②ワーク・ライフ・バランス、③仕事とのつきあい方、④指導方法の4テーマについて5～6人単位の小グループでメンバーの組み合わせを変えながら対話し、意見をまとめて発表する形式で行った（写真1）。



写真1 グループワークとまとめの発表状況

参加者は個々に勉強方法や時間の確保、仕事中心で1日を過ごす色気なさ、仕事の方法や周囲との距離をどのようにとれば良いか、指導方法やモチベーションの高め方など様々な悩みや思いを抱えていた。私自身、頭から仕事を切り離すことが、その後の充実につながると分かってからは、癒しの時を目標にしてワーク・ライフ・バランスを取っている。勉強や仕事も含め、それまでの苦い経験話を役立ててもらえればうれしい限りである。

技術サロンにおける女性技術士を交えた対話の中から生まれた代表的な意見（解決方法）は表1および写真2に示した。終了後のアンケート結果を見ると楽しかった100%、他の人の話が聞けた・まあ聞けたと回答した方は100%であった。また83%の方から参考になったとの回答をいただいた。本技術サロンにおいて、多くの女性技術者の方々と悩みや思いを共有し、対話して解

表1 テーマと意見のまとめ

テーマ	意見
勉強時間	仕事（経験）から学ぶ。毎日数分問題に触れる。積み重ねが大事。
ワーク・ライフ・バランス	にんじんでバランスを！（何か楽しみを目の前にぶらさげておく）
仕事とのつきあい方	仕事や社員を好きになる。好きなことや趣味でON/OFFをする
指導方法	ほめられて育ちたい。完成形が何かを教えて欲しい。まずは聞く。



写真2 カフェの模造紙と意見の人気投票

決方法を一緒に考える「場」と参加者同士の「つながり」を設けられたことは非常にうれしく思う。

4 おわりに

最近「はたらいて、笑おう。」というある企業の広告が目に残った。人は仕事を通じて成長（PERSON）し、社会の課題を解決していく（SOLUTION）。働く人の成長を支援し、輝く未来を目指したいとの意が込められているとのこと。科学技術の進化と共に、技術者の立ち位置も目まぐるしく変化している。技術士になって日も浅く若輩者だが、これからも社会で働く若手、女性技術者の皆様と一緒に「はたらいて、笑っていきたい」。

男女共同参画推進委員会より

研究職としてご活躍の武間氏にとって、技術士は最適な資格とのこと。技術サロンの輪も広がりつつあります。

武間 亮香（ぶま りょうこ）

技術士（生物工学部門）

工学博士
アース・ペット（株） 研究開発本部
e-mail : mennsore133@gmail.com

